

SAIOH

第31回 斎王まつり

新たなる旅のはじまり

平成25年 **1** (土)
6月
(雨天の場合中止)

前夜祭 17時～21時

特別ゲスト/松阪商業高等学校ギター部
開会式・葦舟・斎王他出演者披露

斎王市 15時～21時
斎宮歴史博物館会場

6月 **2** (日) (雨天の場合中止)

禊の儀・斎王群行 13時～15時
上園芝生広場～斎宮歴史博物館

**斎王市
アトラクション** 10時～15時

特別ゲスト/伊勢学園高等学校吹奏楽部

フォトコンテスト作品募集

主催/斎王まつり実行委員会
<http://saioh.jp>

三重県明和町

町制55周年



山本 真人
(津市)



鈴木 伸昭
(松阪市)



神谷 知呂
(豊川市)



山本 泰広
(松阪市)

風流傘
ふうりゅうがさ



伊藤 佳史
(桑名市)

近衛使
このえつかい



稲垣 明香
(春日井市)



山本 由佳
(志摩市)



近藤 加奈
(桑名市)

検非違使
けびいし



鈴木 直孝
(四日市市)



中村 幸美
(明和町)

斎宮十二司官人
さいみやにじしきん



倉田 進
(津市)



大北 博美
(多気町)

與丁
よちよう



神農 ありさ
(鈴鹿市 旭が丘小)

子供斎王
こどもさいおう



古川 みゆき
(四日市市)

斎王
さいおう

配役
はいやく



中井 美波
(四日市市)



村田 光
(大台町)



矢形 仁美
(明和町)



大辺 未来
(伊勢市)

内侍
ないし



米澤 友希子
(尼崎市)

女別当
にょべつどう



安田 智華
(四日市市)

采女
うねめ



竹内 志歩
(東員町)



北出 理華
(長久手市)



市川 寿乃
(静岡県三島市)



岡田 さやか
(津市)

命婦
みうぶ



島田 優希
(津市)



清水 純
(金沢市)



奥村 真衣
(明和町)

女孺
にようじゅ



三好 美香
(豊橋市)



山本 美優
(南伊勢町)

采女
うねめ



乙部 陽菜
(津市)

舞人
まいびと



坂谷 有絵
(伊勢市)



桑原 香
(熊野市)



井上 摩美
(津市)

女孺
にようじゅ



協力参加
皇學館大学
雅楽部の皆さん

斎王を ひもとく

(その七)



井上斎王 (後編)

ふるさとの語り部 山川 充造

この時代に河内の国・弓削から出世してきた怪僧・道鏡が、病弱気味の称徳女帝の祈願治療に成功し、絶大な信頼を受けながら政治の中枢へと昇り、法王の位を得た後も天皇になる画策をしたといわれている。

この頃、井上内親王は白壁王と結婚し、のちに斎王となる酒人女王が生まれ、七年限を経て他戸親王が生まれる。

これより前に白壁王には百済系帰化人の娘、高野新笠との間に女王一人、親王二人が生まれており、天智

まった。

母と弟が悲壮な運命に置かれ、その肉親に逢うことも一言の言葉さえ伝えることも認められぬまま、七七四年九月、酒人内親王には斎宮への盛大な群行の儀式が行われた。それは、何時消されるかも知れない母と弟の身の上を思い、不甲斐ない老齢の父・光仁天皇を見返す別れの儀式でもあった。二十一歳の斎王群行を記した文献には『莊嚴』の文字で表現されていた。酒人斎王が旅立った翌年の四月二十七日、幽閉の身に在った母と子は同じ日に死亡が発表され、果たして自殺か、謀殺か、病死でないことは確かであり、後世には薬殺説が多く伝えられ、時に五十九歳と十五歳の母と子の不運な最期であった。

酒人内親王はその夏に解任となり、ひっそりと大和へ戻った。この八月には伊勢地方に大きな台風が吹き荒れ、死者や倒壊家屋が続出し、斎宮寮も都から修理使の派遣が

七七〇年八月に崩御され、皇嗣難のこの時代、即日、六十二歳の大納言・白壁王に立太子式が行われ、十月には光仁天皇に即位され、井上内親王は五十四歳で皇后の地位に就いた。酒人内親王は十七歳、他戸親王は十一歳で共に花競い咲く奈良の都に育っており、この陰に藤原百川の心の奥底には深慮遠謀の動きがあったことが後の結果となって分かってくることになる。

他戸親王は光仁天皇と井上皇后の嫡子であることから、翌年には皇太子となった。

壬申の乱が終わってから十代ほどの天皇の即位には、常に天智天皇系と天武天皇系といった壬申の乱の怨念のようなものがつきまとい、称徳女帝が独身であったことから後継ぎが立たず、百年余り続いた皇室の渦も、ここで天武系は完全に途絶えることとなった。

古代史をめくれば、政治の為に出世や保身の術として、そのライバル

にはあらゆる策謀が組織的に仕組まれ、無実の罪によっていつ消されるかもしれない運命の繰り返しがあった。

その災難が突然井上皇后に降りかかってきたのである。

七七二年三月には、天皇を呪う鬼道の罪により皇后の地位を剥奪、続いて他戸皇太子も度重なる母・井上の罪状により廃太子となった。その理由は、皇后は、前斎宮として身につけた巫女の呪術により、鬼道を行った『八虐』の第一の罪である。

十一月に酒人内親王は斎宮に卜定され、芳紀十九歳、稀代の美人であったと歴史には記されている

年が替わり、正月には廃太子にされた他戸親王に代わって山部親王の立太子式が行われた。同じ光仁天皇を父に持ちながら井上内親王の系統は見えない指で着々と枠の外へ摘み出される思いのする中を、またもや井上・他戸の母と子は鬼道の罪を着せられ、二人は遂に幽閉されてし

贈られ、『御墓』も『御陵』に改め、

奈良県五條市に宇智陵として祀られ、その魂は『御霊神社』として各地に祀られている。

後編・終わり

参考史料

斎宮志

語り部の竹の斎王語り

山中智恵子

山川 修司



斎王の伊勢滞在期間は短くて二年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)
〔 〕内は実在の確認できない齋王
○は齋宮に群行した齋王
△は齋宮に群行しなかった齋王

時代	歴代 斎王	在任期間(年)	天皇	西暦	歴史上のできごと
	豊嶽入姫(とよすきいりひめ) 倭姫(やまとひめ) 五百野(いおの) 〔伊和志真(いわしま)〕 稚足姫(わかたらしひめ) 荳角(まめかどけ) 磐隈(いわくま) 菟道(うじ) 酢香手姫(すかてひめ)		崇神、垂仁 景行 仲哀 雄略 繼体 欽明 敏達 用命、推古		
飛鳥	○大来(おおく) ○当誓(たき) ○泉(いずみ) ○田形(たかた) 〔多紀(たき)〕 〔円方(まどかた)〕 〔智努(ちぬ)〕 ○久勢(くせ)	六七三～ 六九八～ 七〇一 七〇六 七〇六 ? ? ? ?	文武 文武 文武 文武 元明 元明 元明 元正	(六七二) (六七四) (六九四) (七〇二) (七〇八) (七〇〇) (七二二)	壬申の乱 大来皇女 大和の泊瀬から伊勢に向かう群行の確実な初例(日本書紀) 藤原京に遷都 斎宮司が寮と同格になる 斎宮官制の初見(続日本紀) 和同開珎鑄造 平城京に遷都 古事記撰上
奈良	○井上(いのうえ) ○県あがた* ○小宅(おやけ)* ○山於(やまのうえ)* ○酒人(さかひと) ○浄庭(きよにわ)* ○朝原(あさはら) ○布勢(ふせ) ○大原(おおはら) ○仁子(にし) ○氏子(うじこ) ○宜子(よしこ)* ○久子(ひさこ) ○晏子(やすこ) ○恬子(やすこ) ○識子(さとこ) △掲子(ながこ) ○繁子(しげこ) ○宇子(もとこ)*	七二三～ ? ～ 七四九 七五八 七七二 ? 七八二～ 七九六 七九七 八〇六 八〇九 八三三 八三七 八三八～ 八三三 八三三 八五〇 八五八 八五九 八七九 八八二 八八四 八八七 八九七	? 聖武 孝謙 淳仁 光仁 桓武 桓武 平城 嵯峨 淳和 淳和 仁明 文徳 清成 陽成 陽成 光孝 宇多	(七二〇) (七八) (七五二) (七五九) (七八四) (七八五) (八〇四) (八〇六) (八三四) (八三九)	日本書紀撰上 斎宮寮の拡充整備 官人の定員と官位が決まる(類聚三代格) 東大寺大仏開眼供養会 万葉集編纂 長岡京に遷都 平安京に遷都 最澄帰国 比叡山に延暦寺建立 空海帰国 高野山に金剛峰寺建立 多氣の斎宮を度会の離宮(小俣町離宮跡跡)に移す(類聚国史) 度会の斎宮(離宮院の官舎百余棟焼失 斎宮を多氣に戻す(続日本後紀)
平安					

[illegible]

齋宮跡の発掘調査

平成24年度の



平成24年度 史跡斎宮跡発掘調査区位置図

下園東区画の調査

平成二十四年度は、斎宮歴史博物館および明和町が主体となり、史跡東部に広がる平安時代の斎宮跡の方格地割内の「下園東区画」で三か所、斎宮小学校東隣の「広頭地区」で一か所の調査を行いました。下園東区画では、区画の性格や建物の配置などを確認するために、昨年度より集中的に調査を行っています。広頭地区では、斎宮小学校のプール等の移転に伴い、地下遺構を確認するために調査を行いました。

特に区画南端で見つかった桁行五間×梁間二間の建物は、柱堀形が一辺八〇センチメートルを超える大型のもので、下園東区画内で規則的に並ぶ建物群に当たるものと考えられます。このほか、方格地割と同じ方向で掘られた溝も確認しており、区画内を区分した溝の可能性が考えられます。

この区画は、方格地割の中央北辺部にあたり、南側には斎宮寮（役所）の儀礼空間と推定される「柳原区画」や斎王の居所と考えられる「牛葉東区画」が所在しています。また、東隣の「西加座北区画」では、整然と並んだ建物群が確認されて

第一七七次調査は、明和町観光協会の駐車場内に位置し、下園東区画の中央南部・五四三平方メートルの範囲を実施しました。この調査でも、区画の北西端と北東端部で大型の柱掘形を有する建物が確認され、規則的に配置された建物と考えられます。このほか調査区の両端部では複数の建物が重複して確認されています。調査区中央部には建物は存在しないことから、建物はある程度位置を踏襲しながら建てられていたようです。

第一七六次調査は区画南東部・三一〇平方メートルの範囲を調査しました。ここでは、平安時代前期を中心とした掘立柱建物や土坑、溝などを確認しました。

第一七八、二次調査は明和町が主体となり行った調査で、区画北西部に位置します。この調査では、平安時代前期を中心とした掘立柱建物六棟や南北区画道路の東側溝、土坑などを確認しました。掘立柱建物のうち二棟は、大型の柱堀形を



斎王の群行行列を考える

榎村 寛之

斎王まつりの花形は言うまでもなく斎王の行列です。その元になっているのが、都から伊勢に斎王が五泊六日で旅をした「斎王群行」だということです。ご存じの方も多いと思います。

群行は九月に行われ、その月は斎月（物忌みの月）として、仏事、星祭、改葬などの信仰に係る儀式は禁止されました。そして都の話題が群行一色になったことについては『源氏物語』をはじめ、様々な記録からわかります。しかし肝心の群行がどんな行列だったのかについては意外にわかっていません。斎王の出發が夜であること、天皇一代に一度きりのイベントだったことなどから、行列の詳しい構成については記録がほとんど残らなかったようです。

斎王の群行以外の行列、つまり選ばれた後、しばらく世間から離れる仮の宮（平安時代には野宮と呼ばれる）に遷る行列や、禊をする時の行列については、八世紀から九世紀の記録の中ではしばしば見ることができません。ただしそれは、多くの貴族・官人たちが斎王の行列の前後に配されたという程度の記録で、行列の華やかさやうかがうことができません。彼らが伊勢にそのまま向かうわけではないため、実際の群行行列にはそれほど役にはたちません。むしろ参考になるのは色々な儀式資料に記された、賀茂斎王や春日斎女（九世紀の春日神社に仕えた藤原氏の女性）の行列についての記事でした。

まず、賀茂斎院の行列を見てみましょう。この行列の先頭に立つの



177次調査区 東地区全景



大型掘立柱建物(176次調査区)

有するもので、区画内で規則的に配置された建物群にあたるものと考えられます。調査区北端部では、土師器甕が皿で蓋をされた状態で見つかりました。これは地鎮などの祭祀で用いられた可能性があります。このほか、「安」と刻書された須恵器蓋も出土しました。

今回の下園東区画の調査では、西加座北区画で確認された倉庫群と同様に、規則的に配置された建物を五棟確認することができました。ただ、区画の東半部と西半部では建物配置に僅かなずれがあることも確認され、これらが同時期のものかどうかを含め、現在検討を進めています。

ひつじす 広頭地区の調査

第一七八・四次調査区は斎宮宇広頭地内に位置します。斎宮小学校のプール等の建て替えに伴い、一三一八平方メートルの範囲を明和町が主体となり実施しました。この部分は、方格地割の南西部に隣接する部分です。西側の斎宮小学校建設に伴う過去の調査では、古墳や平安時代後期の四脚門・区画溝などが確認され、公的な施設や有力者の邸宅などの存在が想定されています。今回の調査でも平安

時代中期や後期の区画溝を確認し、緑釉陶器や灰釉陶器、土師器皿・碗などが多量に出土しました。この区画溝は、小学校下で確認された溝とは別のものであり、平安時代中期から後期にかけて、方格地割の外側にも大規模な区画を有する施設が複数存在していたと考えられます。

斎宮跡の公開と活用

今年度の調査では、下園東区画の性格を考える上で貴重な成果が得られたほか、方格地割外の状況も明らかとなりました。こうした成果をもとに、博物館では現地説明会や調査報告会等を通じて情報発信を行っています。また、小・中学校の体験発掘や中学生職業体験の受け入れや一般を対象とした「発掘体験ウィーク」など、より親しみを持って頂ける活用を目指しています。

（斎宮歴史博物館 主査 新名強）

斎宮歴史博物館ホームページ

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/saiku/index.htm>



現地説明会風景



土器埋納遺構(178-2次調査区)

は、賀茂神社がある山城国の国司です。国司は騎兵や郡司を率いて行列を先導します。次に中宮職、近衛府、内蔵寮など、賀茂祭に関わる役所の官人たち、その後に蔵人や命婦など天皇の身近に使える男女官が続きます。このあたりは宮廷に直結した祭といわれる賀茂祭らしい所です。そして齋院に仕える齋院長官が、門部、兵衛、近衛などの武官を従えて続く、いよいよその後には賀茂齋王（齋院）の輿が来ます。輿は駕輿丁に担がれ、輿長がその引率をします。その後ろには再び近衛や兵衛が左右の警備を固め、その間に屏織や翳や笠など、齋王の姿を隠す調度を持つ者が歩き、齋王の乳母、齋院に仕える女孺や童女が馬に乗って続いていたようです。その後には齋院が神社内で使う腰輿と齋院司の官人や陪従（子供）たちが、そして最後には祭に使う道具や禄物を入れた韓櫃や、馬寮の官人、宣旨という宮廷女官の車、膳部の官人や関係者の牛車などが続きます。

一方、春日齋女の場合はどうかという、やはり国司・郡司が先導し、歩兵・騎兵が続く、春日神社に奉る幣帛、走馬の儀で使う馬、それを管理する馬寮の官人、近衛府・中宮職・内蔵寮などの官人、左右衛門の門部、兵衛・近衛が齋女の輦を守り、その後ろに姿を隠す調度を持つ者、そして馬に乗った女性たちや荷物を入れた韓櫃が続く、内侍、女別当、童女の車などの女性の牛車がその後に来ます。

もいたでしょう。その後には齋王の到着を見届ける役の長奉送使とその従者が続きます。たいていは四位の貴族で、伊勢守や齋宮頭よりはるかに高い身分の者でした。齋院や齋女と違い、近衛や中宮の官人は付きませんから、その後には齋宮寮の頭以下の官人やその従者が続いたものと考えられます。そして、齋宮寮の門部司・馬部司などの武官の官人などに警護された齋王の輿、葱華輦と、笠や翳を持って威儀を整える者たちが続きます。長奉送使の従者なども齋王の警護をしていたかもしれせん。その後には内侍以下の齋宮女官の一部が馬に乗って続き、齋王の乳母などが乗った牛車などが続いたものと考えられます。さらに齋宮寮の官人や従者の残りがその後につき、行列の最後には、齋宮に送られる荷物の一部も付いていたかと思われま

時に襖被を行う際、彼らは不可欠な存在でした。

齋宮に送られる荷物の多くは、群行の前に齋宮に送られていたよう

で、齋宮寮の官人の一部も先行して齋宮で準備をしていたようです。そのため、齋王の群行には、五百人以上という齋宮で働く全ての人が一斉に参加したわけではないようですが、それでもかなりの人々が参加したことは間違いのないでしょう。

このように、齋王の群行には、齋院の祭の行列とは違い、華やかなパレードとともに、都から伊勢への大きなお引越しの意味もあったと考えています。



手織りの楽しさを体験

—いつきのみや歴史体験館—

いつきのみや歴史体験館では、平安時代をテーマにした様々な歴史体験メニューがあり、技術文化の体験のひとつに機織り体験があります。

機織りの体験は麻を織る高機の体験と、絹を織る地機の体験があり、それぞれ復元した機を使っています。

明和町を含む旧多気郡内は、上御糸・下御糸などの地名に残っているように、古代より紡織業と関係が深く、神さまに奉る絹や麻を奉織する服部神部という人々の住んでいたところ

齋宮からほど近い所にある神麻統機殿神社（松阪市井口中町）は、上館とも上機殿ともいわれ、内宮の別宮の荒祭宮に納められる麻（荒妙）を奉織しています。体験に使用している高機は、この神麻統機殿神社で平成三年まで使っていた



型を参考に製作したものです。

体験に用いる麻糸は太めの紡績糸で、あらかじめ機

にかけられた経糸は三百本。約三十七センチメートルの織り幅で、



白を基調とした糸に草木染めの色糸を織り込んでいきます。初めて体験される方も、二時間の体験で約四十センチメートルぐらいを織れますのでランチョンマットなどにぴったりの大きさです。織った布は切り取ってお持ち帰りいただけます。

もうひとつの機は、福岡県の宗像大社の御神宝として古代より伝わる「伝御金蔵金銅製織機」というミニチュアの機を四倍の大きさに拡大し、実際に機織りが可能となるように木製で復元した地機です。体験にはやはり太い絹糸を使用し、経糸は光沢のあるもの、織り込む緯糸は紡ぎ糸で、どちらもやはり草木染めで染めたやさしい色合いの絹糸です。地機は、経糸を自分の体で支えながら、



機織り体験（予約制）

【定員】 高機（麻）各回4名
地機（絹）各回2名

【参加費】 各1,500円

【体験時間】 10時～12時／13時30分～15時30分

【体験日】 各月に設定していますのでお問合せください。

いつきのみや歴史体験館

三重県多気郡明和町齋宮3046番地25

TEL.0596-52-3890

ホームページ <http://www.itukinomiya.jp/>

【入館料】 無料 【開館時間】 9:30～17:00

【休館日】 月曜日（祝日の場合を除く）、祝日の翌日、年末年始

【交通案内】 近鉄齋宮駅下車すぐ 伊勢自動車道玉城ICより約20分



アカルプロジェクトと葦

NPO法人アカルプロジェクト
コーディネーター 西川 雅規



葦舟とは

葦舟とは、葦をロープで束にし、水上移動に用いるもの。

葦舟が作られていたという歴史は、エジプトなどに残る壁画や、神話・伝説に見られます。中には、今もなお葦舟を使い続けている文化を持つ人々もいます。日本でも「古事記」にイザナギノミコトとイザナミノミコトとの間に生まれた最初の神様である蛭子命が、葦舟に乗せられて海に流された」と記されています。

また、一口に葦舟といっても、材料は葦に限らず、エジプトではパピルス、ティティカカ湖ではトトラというように地域の特産を用いられるようです。葦、薄、茅、萱、菅、稲藁などを「茅」と呼ぶのに似ているかもしれません。

「葦舟とは、行きたい所へ行くのではなく、行き着いた先が目的地だ」という言葉があります（葦舟関係者のうちで通じる話）。実際に葦舟に乗って漕いだことのある人には「ふむ、ふむ」と頷けるのではないのでしょうか。乗り心地が良く、岩にぶつかっても平気、でも水と風の流れるには逆らえません。のんびりと川下りするにはもってこいですが、逆（川を遡る）は考えたくありません。上流に向かって泳ぐのに似ています。

また、葦舟はわずかな時間でとても簡単に作ることができます。大人3人乗り



の大きさを1日あれば完成します。ただ、作るのに10人以上必要ですが。

ここで、葦舟は日常に使用されていたのではなく、特別なことのために作られた使われてきたものでは、という思いにぶつかります。何度も往復するのではなく、ほとんど一方通行的な舟なのに、建造に関わる人数に対して乗れる人数が少なすぎます。

例えば、何らかの理由で「ムラ」から出て行かなくてはならなくなった人（家族）を、「ムラ」総出で舟を作り、饞別としての種や家畜と共に川に送り出すためとは考えられないでしょうか。出て行った人は、たどり着いた先で新天地を切り開いたのでしょうか。

権力の集積（国家台頭）と共に、人の生活は土地に縛られるようになり、このような習慣は途絶えたのかもしれない。日本では記紀以降、葦舟は歴史から

消えています。

精霊流しの船に藁や茅萱などを使ったものがあるのは、葦舟の名残りと思うのは私だけでしょか？

一方、このような儀式的な使われ方ではなく、素朴に漁に使う文化もあります。この場合は、もっと簡素な舟で、数時間の漁に耐えうる程度のもので。舟というより筏に近いものです。

葦とくらし

日本は、太古より「豊葦原中つ国」と呼ばれ、葦がふんだんにありました。特に大きな川の河口近くや湿地には、広大な葦原が広がっていました。葦原は、人とも密接な関係があり、食・住において多くの恵みを与えてくれました。生き物の揺りかご

とも呼ばれ、多種多様な生き物がその命を育む場所でもあります。地下茎がしっかりと根ざっているので湿地でも歩き回ることができ、それらの生き物を捕まえたり、野草を摘んだりして食料としていました。古代米は背が高く今のように田で育てるとすぐに倒れてしまいます。葦原に種



をまき、葦に守られながら育てたかもしれません。また、葦は家を作る材料にもなります。屋根はもちろん、束ねると柱や梁にもなります。簾にして壁にもなり、それを積み重ねて敷き詰めると床になります。葦原の中を歩いたことがありますか？葦は背が高く、夏はその緑のおかげか涼しく、冬は冷たい風をさえぎってくれます。どういうわけか、葦原の中は音が伝わりにくく、すぐ近くの話し声も聞こえません。葦原での生活は、過ごしやすくプライバシーも守れたんですね。

しかし、時としてその葦原を取り巻く環境は、自然の猛威にさらされる場所でもあります。大雨による洪水・氾濫・攪乱、津波などの危険地域でもあります。時には川筋が変わることもあったでしょう。でもそれは、被害と同時に肥沃な大地を与えてくれるという恩恵もありました。

その頃は、占いや神託などが今よりずっと暮らしに根付いており、それらによつてこの被害から逃れようとしていたのでしょうか。葦原近くに「葦神社」があるのは、うなずけるような気がします。

葦原の変遷



葦舟が活躍（？）していた太古の頃（数千年前）より、2000年ほど前までは、人は葦原に支えられて暮らしていました。稲作が始まる

と、葦原を田に変えていくようになりま

した。それでも、葦は屋根の材料や、農家の道具、燃料などとして、4〜50年前まで暮らしの中で使われてきました。

高度成長と共に、残された葦原も次々とつぶされ、家や工場、道路に変わっていき、川の岸はコンクリートで塗られ、流れる水は黒く汚れ、悪臭を放ち、人をよせつけなくなりました。

もちろん、このような開発からのがれ、生き残った葦原も多くあります。

しかし、そんな葦原の近くでも人の暮らしはもはや葦原から遠ざかってしまいました。今、茅葺屋根の家は、新しく作ることができません（一部条例により可能な場所もある）。えんどう豆の支柱（て）には、プラスチック製の棒を使っています。

そうそう、「すだれ」や「よしず」は、あちこちで見られますね。でも、99%以上中国製。

地球温暖化が叫ばれるようになってから、環境植物として葦原の有用性も着目されるようになりました。しかし、葦原を復元、造成しようとする動きは、国交省が河川を使って一部行っているにすぎません。

余談ですが、最近、休耕田が目立ちます。ある地域では、何年か放置された田が葦原になっていました。ひょっとしたら、2000年ほど前に田に変えられた葦原が、地上権を支配していた稲がなくなくなったことにより、地中で耐えていた地下茎から発芽して復活を遂げたのかも。



斎宮と葦舟

さて、今年は天津神の代表・伊勢神宮と国津神の代表・出雲大社の遷宮が行われます。遷宮自体は、伊勢は20年ごとで出雲は60年ごとぐらいとされているのですが、戦争や諸々の事情により、お互いの遷宮の時期が多少ずれることもあったせいか、今まで伊勢と出雲の遷宮が重なったことはないと言われています。この記念すべき大事業に際し、アカルプロジェクトも、伊勢と出雲で、「天津神と国津神の大和合」を願い、葦舟を奉納することになりました。この奉納のきっかけの一つに勝美流家元・勝美延三氏とアカルプロジェクト副代表・美内すずえとのつながりがあります。そして勝美氏と斎宮、斎王の舞も深いつながりがあります。そのようないきさつの中で、ここ斎宮でも葦舟を作り奉納する運びとなりました。



皆で舟をつくり、何かしら思いの品とともに祓川へと流す。祓川で葦刈をしているとき、何か切ないような、もの悲しげな雰囲気を感じたのは、気のせいでしょうか？

ここ数年、斎王まつりの舞台上から舞台裏まで、あらゆる場所で若い女性たちが元気に活動している姿を見かけた方も多いのではないだろうか。

彼女たちの正体は、出演者OG会『小町』。

全員が斎王役や女官役などで斎王まつりに出演した経験を持っています。
2011年「斎王まつりをもっと盛り上げたい」と有志数名により発足し、現在メンバーは約20名。

当初はまつりの運営補助を主な活動内容としてきましたが、人目を引く華やか



さが話題となり、まつりの枠を超えて明和町のPR活動や各イベントなどにも引く手あまたの状況です。

今年4月からは明和町観光協会に所属し、観光大使のような役割も担っていくとは思いますがもちろん斎王まつりでも、今まで以上に活躍してくれることでしょう。



『小町』とは、斎王まつり女性出演者として得た貴重な経験を、これからの斎王まつりの企画・運営に反映させ、より素晴らしいイベントに高めていきたい!! という強い想いが形になった有志の会です。

出演者として感じたたくさんの想いを発信することから始まりましたが、今では出演者の身の廻りのお世話やまつりの補佐を務められるようになりました。

斎王まつりでは、白装束やオリジナルTシャツを身にまとい、「笑顔いっぱい!!」活動しています。

新実行委員ご紹介

斎王まつりへの思い

実行委員会 二浦邦昭

今回初めて斎王まつりの実行委員をさせていただくことになりました。

私自身の自己紹介も含めまして、斎王まつりへの思いを述べたいと思います。

生まれは三重郡楠町、いまは四日市市となっています。幼少時代に三重県を離れてから、名古屋、東京、横浜、茨城などで過ごし、その後仕事の関係で米国に渡りました。アトランタ、サンフランシスコ、サンディエゴなど18年間の滞在を経て、二〇〇九年の秋、実に55年ぶりにまた三重県に戻ってきました。

そして二〇一一年四月、ご縁があつて明和町に居を構えることになりました。天皇の御使いとして神宮にお仕えた斎王に関しては、日本史の中で目にしたことがある位で、明和町に斎宮があつたことは全く知りませんでした。本当にうれしい驚きです。

米国滞在中に、日本に関していろいろ考える機会が多くありました。

日本は百二十五代二六〇〇年に亘る天



皇家を保持する国であり、これは世界に類を見ません。この歴史の深さは、思想、衣食住、生活習慣など日本人全ての礎となっています。これは、建国後二四〇年の歴史しかない米国に住んでみて、その違いを実感しました。

今回実行委員として斎王祭りに参加することにより、天皇と伊勢神宮のかけ橋となった斎王の歴史をもっと深く理解したいと思っています。

まだ何も分からないことばかりですが、皆さまのご指導よろしくお願い申し上げます。

「実行委員会に入った経緯」について

実行委員会 伊藤佳史

「千三百年の祈り」私と斎王まつりとの出会いは昨年30回目となる節目の年でした。

天皇の名代として伊勢神宮に仕えたという斎王。私は、昨年見た斎王群行の中で、斎王とは遠く離れた都から5泊6日の長い旅を経てこの地斎宮へと赴任される雅やかで華やかな存在だと思っていました。しかしながら、斎王についての歴史を読み進めていくうちに判った事は与えられた名譽とは裏腹に責任、不安、別れの悲しみという様々な想いを抱いたままその任に就かれたという史実でした。

私が斎王まつり実行委員会に入るきっかけとなったのも、大学で歴史学を学び日本史を専攻していた事が大きな要因だったのかもしれない。卒業から数年が経ち、歴史から遠ざかっていた私にとって斎王を知るといふ事が再び歴史と出会う良いきっかけとなりました。

個人的には、目標に向かってみんな協力しひとつの事を成し遂げるのが好きな私にとってステージ作りからまつりのPR、グッズの企画など何でも主体的に行動し、作り上げる姿は魅力的なのです。

人として社会人として大切な物は何か。社会に貢献する事で自分も成長していきたい。そんな気持ちから実行委員に入る事を決めました。

「抱負」について

今年の斎王まつりは「新たな旅のはじまり」というサブタイトルを掲げ31回目を迎えます。

昨年は、沿道から群行の通過を見ていた私も今年は斎王まつり実行委員会の一員として初めから終わりまで終始斎王まつりに携わって参ります。

地元桑名の地においてどこまで自分が明和町の方のお役に立てるのか分かりませんが、自分がそうであったように見に来て下さる皆さんの心に残る斎王まつりを作っていければと思っています。温かく迎えていただいた実行委員会の皆様や明和町の皆様に感謝しながら先人達が築き上げてきた斎王まつりの魅力を全国に広めていきたいです。

いにしえの時を越え、斎宮の地に復活した「斎王」と「いつきのみや」。幻の宮で織り成す祭時は是非ひとりでも多くの方と享受出来ればと願っています。



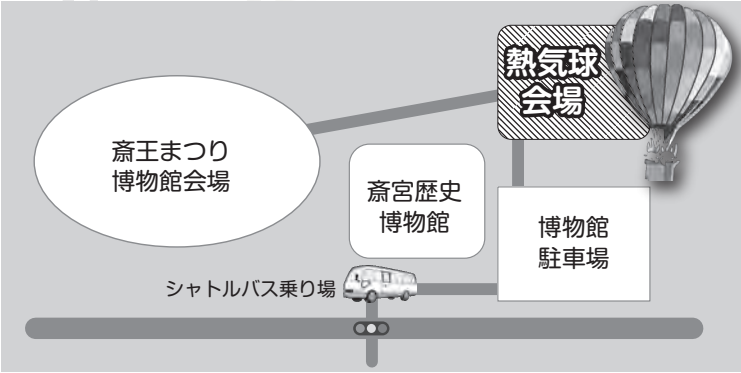
熱気球係留フライトについて

●日本最大級の気球と扉付きバリアフリーのバスケットを使用し、車椅子の方や乳幼児連れの方も搭乗可能

●熱気球と地上のアンカーをロープでつなぎ約20m～30m浮上する。(天候により高さは制限される。)

●一回に大人の方のみで7名、親子の場合は8～10名搭乗可能

●一回あたりのフライト時間は、乗降時間を含めて約4～5分



第 30 回（24 年度）斎王まつり実行委員会活動報告

（敬称略）

1月 16日(月) 会計監査
21日(土) 役員会
27日(金) 実行委員会総会
31日(月) 総務・財務班会議
2月 1日(水) 三重県観光交流会・東京会場
10日(金) 出演者募集締切・実施班会議
13日(月) 三重県観光交流会・大阪会場
17日(金) 役員会(出演者書類選考)
26日(日) 『梅まつり』協賛(斎宮歴史博物館)「小町」協力
3月 2日(金) 役員会(選考会について)
4日(日) 子供説明会(子ども斎王抽選 中央公民館)
11日(日) 斎王役選考会(いつきのみや歴史体験館)「小町」協力
17日(土) ざいしよ市参加(イオン明和ショッピングセンター 着付け体験)「小町」協力
27日(火) 夕刊三重取材 新斎王役松本さんインタビュー事務所にて
28日(水) 観光ガイドマガジン「コンパス」主催対談 博物館にて(森下 斎王 松本)
4月 4日(水) 広報班会議
11日(水) 県政だより6月号掲載 取材 博物館にて (斎王 松本)
13日(金) 斎王市会議
17日(火) 広報班会議
27日(金) 第1回全体会議 役場研修室にて
5月 4日(金) 三重テレビ「とっともワクドキ」出演(斎王 松本 子ども斎王 高山)
7日(月) 三重テレビ「句感三重」出演(斎王 松本)
10日(木) 知事表敬訪問
13日(日) 出演者説明会・看板、のぼり準備・ステージ道具製作
15日(火) 着付け教室(午後)
16日(水) NHKほっとイブニング打ち合わせ
17日(木) 日本画家 中村 麻美さん来所(事務局対応)・名古屋テレビ「どですか」打ち合わせ
中日新聞取材・ アトラクション会議
20日(日) のぼり立て(午前)子ども説明会(午後)ステージ組み立て
22日(火) 伊勢新聞取材
24日(木) 夕刊三重取材
25日(金) 岐阜ラジオ出演(事務局)・最終全体会議
27日(日) ステージ作り・KBS京都ラジオ出演(25代斎王 鳥井)
29日(火) 名古屋テレビ「どですか」出演(斎王・実行委員)・衣装準備
31日(木) FM三重ラジオ出演(事務局)

6月 1日(金) ステージ作り・NHKほっとイブニング出演(斎王 松本 前斎王 竹内 事務局)
2日(土) 前夜祭
3日(日) 斎王まつり
10日(日) 片付け・打上・[Cheers!伊勢志摩]斎王十二単モデル
22日(日) 伊勢まつり会議(斎宮歴史博物館にて)・斎王まつり反省会
7月 13日(金) フォトコンテスト応募締め切り
18日(水) フォトコンテスト1次審査
24日(火) 役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)応募者96名応募作品228点
8月 19日(日) 第30回斎王まつりフォトコンテスト表彰式
第30回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展
(いつきのみや歴史体験館にて8月30日まで)
9月 6日(木) 伊勢まつり会議(斎宮歴史博物館にて)
11日(火) 伊勢まつり会議
29日(土) 伊勢まつり斎王・あこめリハーサル
10月 3日(水) 伊勢まつり 斎王群行用衣装準備
4日(木) 役員会(臨時総会について・伊勢まつり・ポスター決め)
7日(日) 伊勢まつり 斎王群行
9日(火) 衣装片付け
12日(金) 臨時総会
14日(日) 三重物産展 十二単装着実演(第25代斎王 鳥井)
25日(木) 伊勢まつり反省会
27日(土) 「浪漫まつり」協力 (斎王役・松本 女官役2名)
11月 6日(火) 古道まつり衣装準備
9日(金) 勉強会 講師・斎宮歴史博物館 榎村先生
梅まつり会議
11日(日) 古道まつり 中止・衣装片付け
24日(土) ざいしよ市参加(イオン明和ショッピングセンター 着付け体験)「小町」協力
30日(金) 明和町ガイドブック会議
役員会・実施班会議
12月 1日(土) 斎王群行 出演者 募集開始
9日(金) 読売新聞社 取材
26日(水) 明和町ガイドブック会議
27日(木) 事務所仕事納め

図書の紹介

私達の「斎宮」について
より多くのことを知っていただくために
―地元で読める斎宮関係図書のご紹介―

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「斎宮」の入門書として	谷口布有緒文 里中満智子画『斎王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『斎宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の斎王語り』近代文芸社◎☆◇ 榎村寛之著『伊勢斎宮と斎王』塙書房☆
郷土の歴史として「斎宮」を知りたい方に	奥井宏忠著『別れの御櫓―斎の宮と斎宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る斎王』○◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢斎王宮の歴史と保存』○◇ 『同Ⅱ』◇
斎王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	田畑美穂著『斎王のみち―伊勢斎宮の文化史―』中日新聞本社○◇ 村井康彦監修『斎王の道』向陽書房◎☆◇
「斎王」を小説で読んでみたい方に	内田康夫著『斎王の葬列』角川書店○◇ 池田美由喜著『鶯草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 々々『伊勢斎王の恋』近代文芸社◎◇ 々々『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社◎◇
「斎宮」や「斎王」について考えてみたい方に	津田由伎子著『斎王』学生社○◇ 山中智恵子著『斎宮女御微子女王―歌と生涯―』大和書房○◇ 々々『斎宮志』大和書房○◇ 々々『続斎宮志』砂子屋書房○◇ 々々『斎宮簡記』砂子屋書房○◇ 所京子著『斎王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 々々『斎王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『斎宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

第31回（平成25年度）斎王まつり実行委員会組織体制

役 職 名								
本部	代 表	土井 祐治	名誉会長(町長)	中井 幸充				
	副代表	笛川 浩	顧問	木戸口眞澄 辻 正信	西場信行 辻 丈昭	浜井初男 東谷泰明	池山マチ 山川充造	北岡 泰
	副代表	岩佐 康則						
	副代表	森田 均						
会計監事	事務局	山中 いずみ	相談役	辻 孝雄 西川道子	北村純一 渡邊幸宏	橋本久雄 森下 清	東谷泰明 田中 貢	森島啓之
	朝倉 惟夫	久世 晃						
9								

小委員会名	任務分担の内容	構成する委員の氏名					
総務・財務班	総務の実施 財務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等 斎王市の実施	◎森下 清	○堀木茂生 西村直克 小林順一	竹内克巳 森島啓之 田端正俊	大西俊次郎 森西捨巳 奥山幸洋	辻 孝雄 田中真司	中川裕正 田中 貢
		13					
会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎東谷泰明	○北川和樹 小山千緩	石田豊喜	澤 恒一	中瀬正実	橋本久雄
		7					
着付班	着付け準備と後片付け	◎新田一子	○清水清子 菊矢照子 新谷千恵子	○田中政子 安井澄代 中村真朱美	○西宮幸代 夏井ちはる	衣斐喜代美 森 洋子	竹内喜子 服部益子
		13					
まつり実施班	前夜祭の実施 祓の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 アトラクションの実施	◎関岡武夫	○北岡 泰 ○中西修一 北山房夫 西岡信行 秋山修一 間宮一彦	○北村哲也 永島せい子 小林邦久 長谷川新 伊藤佳史	○早川潤一 石田藤生 佐々木久夫 辻 満寿美 三浦邦昭	○森菜津子 伊串金市 東谷泰介 中島 宏 辻 正	○八田明美 亀村定雄 西山浩一 市野秀世 乾 健郎
		27					
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理					
		1					

敬称略・順不同（◎は班長 ○は副班長）平成25年4月28日現在

群行衣裳



長奉送使【ちようぶそうし】



監送使ともいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

隨身【ずいしん】

隨身とは、貴族が外出する際に警護にあたつた近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。

駕輿丁【かちよう】



斎王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。



女孺【にようじゆ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】



内侍または命婦【ないしまたはみようぶ】



斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】



内侍や官旨が、斎王の住むエリアで公的性格をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではありません。詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣（うしろぎ）といひます。単衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上にはベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、桂、単となっています。

唐衣は衽、衿合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は砒で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。桂は、內衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は桂と同形ですが、衽、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

1. 垂髪
 2. 唐衣
 3. 表着
 4. 打衣
 5. 衣（桂）（枚数を重ねている）
 6. 単
 7. 長袴
 8. 裳（全体）
 9. 裳の小腰
 10. 裳の引腰
 11. 櫛扇（相扇）
 12. 帖紙
 13. 日陰の糸（玉かずら）
- ※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。



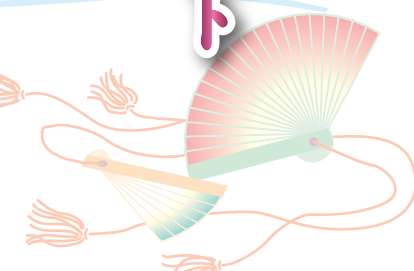
には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。

斎王フォトコンテスト

斎王賞



「王女」 明和町 間宮 修



町長賞



「斎王のほほ笑み」 明和町 早川 洋

明和町教育長賞



禊の儀「斎王献花」 鈴鹿市 外海 善直

明和町議会議長賞



「旅立ち」 松阪市 阿部 道男

斎宮歴史博物館長賞



「楽しい群行」 明和町 西岡 育生

特別賞



「愛しき斎王」 明和町 藤川 洋子

特別賞



「禊に向かう」 津市 名嶋 教恭

特別賞



「式典を終えて」

志摩市 山本 幸平

特別賞



「禊の儀式」 松阪市 高柳 美鶴代

特別賞



「斎王群行」 松阪市 三瀬 誠

フォトコンテスト

◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

・平成25年7月12日(金)当日消印有効

・(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

・応募票を作品裏面に貼付、郵送または斎王まつり事務局所受付。

◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人3点以内(未発表の作品)に限ります。

・応募票の各項目に楷書で記入し、題名お名前にはかならずフリガナをつけてください。

・(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらかじめデーターをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

◆賞

・入賞は、10賞(斎王賞ほか)、入選は10作品

◆選考方法

・作品は斎王まつり実行委員会にて選考いたします。

◆発表

・8月上旬に入賞者にのみ直接通知いたします。

◆応募先

・斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-10321 三重県多気郡明和町斎宮2811番地

電話 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544

電話 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544

FAX 005599615522170207544



第28代 齋王役
松本 夢歩

齋王役を務めて

御簾が上がり、スポットライトに誘われ一歩を踏み出した前夜祭。歩く度に感じる十二単の重みから、「齋王まつり」の歴史を感じると共に、檜扇伝達では歴史を象徴するバトンを受け継ぎ、1年間のお務めを全うしようと心に誓いました。

齋王群行では、葱華蓮に優しい風が吹き抜け、齋宮の地が歓迎してくれているようでした。沿道にはたくさんの方々の笑顔が溢れ、毎年楽しみにしてくださっている方々の温もりと共に伝わってきました。

幼少の頃には知り得なかった、たくさんの方々の支援やお気持ち……舞台に立つことで、それはしっかりと『形』になっていることが分かりました。素晴らしい景色やお心遣いに感謝申し上げます。

今後の齋王まつりが新たな旅立ちを迎え、更なる発展を遂げ、全国へ発信していくことを祈っております。また次に引き継ぐバトンにも、色鮮やかな歴史が刻まれますように、重ねてお祈り申し上げます。



子ども 齋王
高山 華奈

子ども 齋王を務めて

初めて齋王まつりに参加したにも関わらず、子ども 齋王役になれたのでとても驚きました。そうかかれば、ゆれるのが少し怖かったけど、群行をしている間になれてきたので緊張せずに楽しむことが出来ました。

この子ども 齋王役をして齋王の歴史や文化、暮らしにも興味を持つことが出来ました。

この経験を生かしてこれからも色々な事に挑戦したいと思っています。



葱華輦復元模型 (齋宮歴史博物館蔵)

新たな旅のはじまり

齋王まつり実行委員会 代表 土井 祐治

本年より、私は第六代目の代表を務めさせていただきます。

今年は、第三十二回目の開催となります。又、明和町の誕生五十五年という記念する年を迎え、サブタイトルに「新たな旅のはじまり」を揚げ、未来に向かう新しい齋王群行の出発にしたいと思っています。

地元明和町民のみなさん、町内外の協賛企業のみなさん、齋王市出店のみなさん、アトラクション出演のみなさん、明和町役場のみなさん、その他各種団体のみなさん、たくさんの方々に応援をして頂き、また、全国からたくさんの方々、初夏の風が吹き野苧蒲の花が咲く「いつきのみや」に集い、素晴らしい第三十一回の「齋王まつり」になりますようお願いいたします。



—— 三重県観光キャンペーン ——
2013.4～2016.3

主催／齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町教育委員会、中部運輸局三重運輸支局、齋宮歴史博物館、公益財団法人 国史跡齋宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、明和町観光協会、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)
問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274